

団体紹介

自分の力を発揮できる場所

劇団しろばんば

平成9年に旧天城湯ヶ島町「町民劇団しろばんば」が誕生したきっかけは、以前に東京の劇団が上演した「しろばんば」を見て違和感を感じ、しろばんばの舞台となった地元湯ヶ島の町民が演じたらもっと違う表現ができると思い、誕生しました。

毎年広報紙で団員を募集し、朗読劇をあわせて合計7回「しろばんば」を上演しました。全国に1



00以上ある町民劇団の中でも、子ども参加人数の多さは、いつも一番でした。毎年15名から20名の児童や生徒が出演し、その保護者の方々も巻き込み、下は5歳の幼稚園児から上は75歳と実に年齢層が幅広い団体です。親子・孫と一緒に参加して作り上げていく作品であり、終演後の充実感は、実にすがすがしいものです。演劇は総合美術であると思います。歌う・踊ることはもちろんのこと、絵を描くのが好きな人、大工仕事の得意な人、裁縫、音響、メイク着付けなど、自分の持っている能力を十分に発揮できる場所です。子どもたちのすばらしい感性に驚きながら、一つの作品を作りあげ成功させようという熱意が、団員の間に生まれています。

今までは、天城湯ヶ島町という大きな傘の元で活動してきましたが、伊豆市の誕生とともに、自分



たちの力で歩んでいこうと文化協会に加入しました。

現在は、小学校の朗読教室のお手伝いや、TV映画に出演したりしています。特に子どもたちは、映画のオーディションを受け、外国の映画祭に入賞した作品に出演し、エンディングに名前がのり、劇団以外でも活躍しています。これから自主公演の企画が立ち上がりましたら、広報いずで出演者の募集をしたいと思っています。みなさまの参加をお待ちしておりますので、よろしくお願ひします。

俳壇

伊豆市俳句愛好会

衣更へて何処へ行くでもなき構へ

(弁) 天杉山十四男

紫陽花のすでに漉へし海の色

(牧之郷) 土屋 耿人

大空に草矢の行方確めり

(柏久保) 森 正

竹林の地は鎮まりて遠蛙

(年川) 成田 静子

花博に伊豆市の庭や聖五月

(駅前) 山崎 こう

上弦の月の弓張り青葉木菟

(加殿) 小川 知子

老鶯の声遠のきて日暮かな

(小立野) 阿部 のり

メモよりも多き買物四葩咲く

(大野) 渡辺 米子

武者反りの垣と堰間の釣鐘草

(牧之郷) 市川 章

みんなの広場



さとか
小西慧花ちゃん

●冷川地区
●H14年11月26日生まれ
●雅也さん・昌子さんの次女
●こんにちは、慧花です。いつも大好きなお姉ちゃんが遊んでくれるんだ。水浴びしたりプールに行ったり。ふれっふにも行ったよ!



高木 しょう
丈くん

●加殿地区
●H14年11月25日生まれ
●修さん・啓子さんの長男
はじめまして、丈です。暑い夏はお庭のプールで水遊びをするのが一番! 毎日、パパやおじいちゃんに遊んでもらってるんだ。

スイスイのびんぐ

◎健康の秘訣

ご飯をちゃんと食べていることですね。特別なものを食べるわけではなく、3度の食事でお米をしっかりいただいています。

◎楽しみ・生きがい

20年近く趣味でやっている川柳せんりゅうが今は何より楽しいです。頭を使い考えるので、張り合いもあって楽しいです。



いきいき

まさえ
大石政江さん

(土肥)
●大正3年11月12日(90歳)

歌壇

くぬぎ短歌会

水張りし代田に二つ雲遊ぶ
何に語らうや 塩谷喜子夫
つつじ咲く葛城山は海に向
く ロープウェイ日差しや
わらく 八木下左夜子
一日終え鎌をかついて入る
庭テッセンの 白さふかく
目に沁む 勝又 晴栄
豊かなる出湯と溪流海もある
汚職なきまち

田中 早苗

種を包む綿毛は白く光りつ
つ 春の疾風に旅立ちゆけ
り 杉本八重子

村人の哀歎みつめる道の辺
の 道祖穂しき伊豆市とな
れど 山下 久代

どちらですか「中伊豆です」
と言える日も 二十日を切り
て桜芽を吹く 飯田三世子
友よりの一本すずらんが庭
を覆いて風にそらいて鈴を
ふる 山本 広衛

天城より駿河の海の山脈を
咲きそめ伊豆市を祝う

石井 正一